

## 小学校 図画工作

### 重点1 育成する資質・能力が明確な授業を！

- A表現の「造形遊びをする活動」を通して、児童自身が活動を思い付き、どのように活動するか考え、活動を工夫してつくる授業を行っている。
- A表現の「絵や立体、工作に表す活動」を通して、児童自身が表したいことを見付け、どのように表すか考え、表し方を工夫して表す授業を行っている。
- B鑑賞の「作品などを鑑賞する活動」を通して、児童自身が造形的なよさ、表したいことや表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる授業を行っている。

#### 【ポイント】

活動すること、作品をつくること、作品をみることが目標ではなく、その題材で、その授業でどんな資質・能力を身に付けさせたいのかという目標を明確にしましょう。

### 重点2 児童が造形的な見方・考え方を働かせる授業を！

- 題材など内容や時間のまとまりの中で、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面を設定している。
- 児童が友達に紹介したくなる、話し合いたくなる場面を**実態に応じて設定し**、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする活動が設定されている。
- 学びの深まりをつくり出すために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業を進めている。

#### 【ポイント】

図画工作科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のために、児童一人一人が「造形的な見方・考え方」を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実することが大切になります。

### 注目！ 見方・考え方を働かせるとは？

造形的な視点とは、造形を豊かに捉える多様な視点であり、形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりする視点のことです。

造形的な見方・考え方を働かせるためには、表現及び鑑賞のそれぞれの活動において、造形的な視点を基に、どのような考え方で思考するかということを児童生徒一人一人に常に意識させることが必要になります。

まずは、先生方が「見方・考え方を意識する」ことが大切です。

## 中学校 美術

### 重点1 育成する資質・能力が明確な授業を！

- A表現の「絵や彫刻などに表現する活動」、「デザインや工芸などに表現する活動」を通して、生徒自身が主題を生み出し、表現の構想を練り、工夫して表す授業を行っている。
- B鑑賞の「美術作品などの見方や感じ方を広げる活動」「美術の働きや美術文化についての見方や考え方を広げる活動」を通して、生徒自身が良さや美しさなどを感じ取り考え、見方や感じ方を広げる授業を行っている。

#### 【ポイント】

A表現では、「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」のそれぞれに描く活動とつくる活動を取り入れましょう。作品をつくること、作品をみることが目標ではなく、その題材で、その授業でどんな資質・能力を身に付けさせたいのかという目標を明確にしましょう。

### 重点2 生徒が造形的な見方・考え方を働かせる授業を！

- 題材など内容や時間のまとまりの中で、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面を設定している。
- 自己との対話を深めたり、〔共通事項〕に示す事項を視点に、表現において発想や構想に対する意見を述べ合ったり、鑑賞において作品などに対する価値意識をもって批評し合ったりする活動を取り入れている。
- 学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業を進めている。

#### 【ポイント】

表現と鑑賞を関連させながら、上述の項目を意識し主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を進めていくことが大切です。このことが、豊かな造形的な見方・考え方につながります。

## 高等学校

## 芸術（美術・工芸）

\*以下の文中（）内は工芸についての記述

### 重点1 育成する資質・能力が明確な授業を！

- A表現の「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」（「身近な生活と工芸」「社会と工芸」）を通して、生徒自身が主題を生成して(思いや願いなどから)発想や構想を練り、創意工夫して表す授業を行っている。
- B鑑賞の「美術(工芸)作品などの見方や感じ方を広げる鑑賞」、「美術(工芸)の働きや美術文化(工芸の伝統と文化)についての見方や感じ方を深める鑑賞」を通して、生徒自身がよさや美しさなどを感じ取り、考え、見方や感じ方を深める授業を行っている。

#### 【ポイント】

「内容の取扱い」を確認し、それぞれの教科において育成する資質・能力が身に付くよう指導計画に適切に題材を位置づけましょう。作品をつくること、作品をみることを目標ではなく、その題材で、その授業でどんな資質・能力を身に付けさせたいのかという目標を明確にしましょう。

### 重点2 卒業後も、生徒が造形的な見方・考え方を働かせる授業を！

- 題材など内容や時間のまとまりの中で、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面を設定している。
- 自他の見方や感じ方の相違などを捉えて、対象の見方や感じ方を深める活動を取り入れ、〔共通事項〕に示す事項を視点に、価値意識をもって批評し合い討論する機会を設けている。
- 学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業を進めている
- 学校を卒業した後も、美術や工芸を愛好することができるよう、その楽しさや大切さを伝えている。

#### 【ポイント】

見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞の活動の関連を図るなどして、科目の特質について理解するとともに、創造的な表現を工夫したり、美術(工芸)のよさや美しさを深く味わったりする過程を大切に学習の充実を図ることが重要です。

## 小・中・高を通じて身に付けてもらいたい 資質・能力（目指す子どもの姿）

### ◎生活や社会の中の形や色など（小）、美術や美術文化（中・高）と関わる資質・能力

色や形との関わり方は人によってさまざまです。  
・絵を描く ・陶芸で器を作る ・美術館で作品をみる  
・自分に似合う洋服を選ぶ ・料理を美しく盛り付ける  
・雑貨屋で好きな色のマグカップを選ぶ  
・美しい紅葉を見に出かける … など

生活の中で造形的な視点をもって身の回りの様々なものからよさや美しさなどを感じ取ったり、形や色彩などによるコミュニケーションを通して多様な文化や考え方に接して思いを巡らせたりすることで心豊かな生活を形成することにつながっていきます。

### 図工・美術・工芸の授業を生活や社会とつなげる工夫

身のまわりの環境や自然、家庭で周囲にある色や形をじっくりみて気がついたことを授業で共有する、また、授業でつくった作品を実際に家庭で使ってみて、他の人の使い心地を聞く。それを授業で発表し、新たな発想や構想に生かすなどが考えられます。図工や美術、工芸の学びを教室外に広げる工夫をしましょう。

## 研修等について

### ○小学校図画工作科教育講座 ～造形的な見方・考え方を働かせる図工の授業を考えよう～ 【鑑賞編】

\*10月1日(火) 島根県立美術館  
\*講師：小林恭代(国立教育政策研究所 教科調査官)

### ○中・高等学校美術教育講座 ～生徒が主題を見いだすための授業のヒントを考える 鑑賞の活動の在り方～

\*6月18日(火) 島根県立美術館  
\*講師：平田朝一(国立教育政策研究所 教科調査官)

### ○ゼロから学びたい先生のための教科教育研修 【中学校免許外教科：美術編】

\*5月2日(木) オンライン

## オンラインで学ぶ図工・美術

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策研究所)をもとに、学習指導要領の改訂のポイントと学習評価について解説しています。

### 新学習指導要領の改訂のポイント と学習評価(小学校 図画工作科)



### 新学習指導要領の改訂のポイント と学習評価(中学校 美術科)



### 新学習指導要領の改訂のポイント と学習評価(高等学校芸術科(美術・工芸))



※参照『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』

nits 独立行政法人教職員支援機構

## 指導と評価の一体化の実現に向けて～学習評価を行う上で大切にしたいこと

### ①その題材で身に付けさせたい資質・能力を明確にする

図画工作科・美術科における「内容のまとまり」と「評価規準」との関係を確認し、その題材を通してどんな力を身に付けさせたいのか、学習指導要領の指導内容等を踏まえ、明確にしましょう。

### ②「おおむね満足できる状況」の姿を具体的にもつ

①を踏まえ、「おおむね満足できる」状況としてどのような姿が考えられるのかを具体的にイメージしておきましょう。その際、「おおむね満足できる姿」は一つではなく多様な姿となるため、教師が予測する姿だけで評価することのないように留意する必要があります。

### ③児童生徒の学習状況を把握し「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の場面や評価方法を十分検討する

日々の授業の中で児童生徒の学習状況を捉えて適宜指導することが大切です。その上で評価規準に照らして観点別学習状況の記録を取っていくことになります。毎回の児童生徒の全ての評価を記録するのではなく、その児童生徒の資質・能力に対して状況を見取り指導する場面「指導に生かす評価」と、指導した結果の学習状況を捉える場面「記録に残す評価」とを計画しておきましょう。

### ④多様な視点で学習状況を捉える

特に小学校においては一人一人の表現活動が目前で多様に展開されていきます。児童の学習状況を、活動に取り組む様子、発話、作品、ワークシートへの記述などから捉えることができます。必要に応じて対話したり発問したり作品と照らし合わせたりするなどして学習状況を捉えましょう。

ここで、②の姿の実現を捉えることが大事です。

